

SOTO禅インターナショナル

発行日 1996年9月1日 発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦
発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒361埼玉県行田市下中条1619-2
Tel. 0485-57-0999 Fax. 0485-57-2347 振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

第 8 号



熊本聖護寺国際安居 法堂での法益

国際的な活動の架け橋に！

宗務総長 大竹明彦



「SOTO禅インターナショナル」が発足して三年余になります。メンバーも二五〇人をこえて次第にその地位を確かなものにしてつづけることは、まことに喜ばしいことです。

曹洞宗は「人権・平和・環境」を柱とした二十一世紀の教団づくりを進めておりますが、この教化活動はすべてボーダーレスな国際化を基盤としたものです。ユニバーサルな視野と規模なくしては成果は期待できません。その意味においても、「SZI」の活動に大きな期待感を持っています。

SZIでは人材の養成を重点事業としていますが、おおいに賛成です。とくに曹洞禅が伝播していった国の人々による育成が重要であろうと考えます。かつてわが国に渡来した仏教が日本の民族的な宗教感情である、祖先を崇拝する信

仰と結びついて根付いたごとく、その国や民族の宗教的な欲求と結合するためには、その国の人の手によるべきでしょう。

しかしその前段階として日本曹洞宗との交流が必要であることはいうまでもありません。このことに尽力された今は亡き檜崎一光老師が偲ばれます。

その意味においてロス禅宗寺を中心とした、「スタディーツアー」などは格好の計画といえましょう。関係者の先見性を感じます。

宗務庁においても今後の国際的な活動の基本教材となる教典の英訳に着手しました。すでに実際の作業に入っており、近い将来においてよき伴侶となるでしょう。

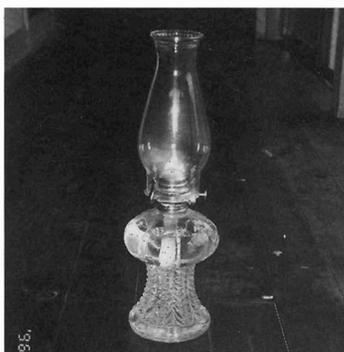
「人権・平和・環境」の問題は、いずれも日本というローカルリズムの課題でありながらユニバーサルな共通の宗教的テーマであります。国際的な共通の理解を必要としています。今後の活動においてSZIがその架け橋となる活動を期待してやみません。

今後内外においてSOTO禅インターナショナルの存在を一層アピールしたいものです。

『ランプのもとで』

『聖護寺国際安居参加レポート』

SZ I事務局 大谷有為



聖護寺のランプ

がかったロマンチックなランプの灯りは、非常に印象深い。が、当然生活していく上では不便さも伴う。これは、聖護寺に安居している修行僧として例外ではない。

たった四つのランプの灯りのもとで、聖護寺のミーティングは行われる。山内総勢十七名が長机を囲んで向かい合う。遠くに座った人の顔はほとんど見えない。そう、ここには電気が引かれていない。ガスもない。蛇口から出てくる水は山の水である。確かに、電気のある生活が当たり前になった現代人にとっ

ては、この自然の明るさ（いや、むしろ暗さと呼ぶべきであろう）と、ふんわりと赤みがかったロマチックなランプの灯りは、非常に印象深い。が、当然生活していく上では不便さも伴う。これは、聖護寺に安居している修行僧として例外ではない。



庫院でのミーティング

『昔は昔。ランプしかなかったのだ。今は電気がある。古ののつとるのは良いが、便利になったところはどんどん取り入れていけばいいのではないか』

『ここでの暗さ、静けさ、水、空気、鳥の鳴き声といった自然とのふれあいは人生の根本であり、現代社会には失われているものである。ここだけにあるものは保持していかなくてはならない』



法堂より雲堂を望む

『坐禅の時はいいが、庫院はやはり衛生的にももっと明るいほうがいいのではないか』

『明るいうちに掃除をすればいい。自然の明るさを大切にしたい』

『本を読んだり、勉強するのに暗くて不自由だ』

『根本をとらえるべきだ。人中心で、明るいだの、暗いだのと、ものを考えるのはもってのほかである』

『昔は昔。ランプしかなかったのだ。今は電気がある。古ののつとるのは良いが、便利になったところはどんどん取り入れていけばいいのではないか』

『ここでの暗さ、静けさ、水、空気、鳥の鳴き声といった自然とのふれあいは人生の根本であり、現代社会には失われているものである。ここだけにあるものは保持していかなくてはならない』

『坐禅の時はいいが、庫院はやはり衛生的にもっと明るいほうがいいのではないか』

『明るいうちに掃除をすればいい。自然の明るさを大切にしたい』

『本を読んだり、勉強するのに暗くて不自由だ』

『昔は昔。ランプしかなかったのだ。今は電気がある。古ののつとるのは良いが、便利になったところはどんどん取り入れていけばいいのではないか』

『ここでの暗さ、静けさ、水、空気、鳥の鳴き声といった自然とのふれあいは人生の根本であり、現代社会には失われているものである。ここだけにあるものは保持していかなくてはならない』



薪割り作務は生きていくために

今回、五回目を迎える国際安居に、六月十日から十五日のわずか六日間の期間ではあったが、特別に参加させていた。世界各国から聖護寺に集まる外国人の修行僧は九名を数える。これに愛媛県の瑞応寺から、ここに詰めている日本人の修行僧六名、講師の先生三名がこれをサポート

する。聖護寺を訪れると、まず山門にたどり着くまでに、途切れることなく視界に入ってくる山々の緑の色の濃さに驚嘆の声をあげずにはいられない。そして、太陽の光とランプのわずかな灯りだけで生活することにより、夜から朝へ、昼から夜へと移り変わる瞬間を

体感し、言い表すことのできない感動を覚えるのである。発心して海を渡ってきた外国人の修行僧の目的意識は明確である。自己の修行を深めること、そして、僧堂生活を通して日本の伝統禅を学ぶことである。質問

を投げかけてみると、ほとんどの人がこう答えた。彼らと寝食を共にし、コミュニケーションをとり、また坐禅／作務／飯台／法要といった弁道修行を通して、その意識の高さを感じ取ることができた。さらに、その態度のまじめさもさることながら、学習意欲の貪欲さにはことのほか驚かされた。本山同様、いやそれ以上の差定をこなしながらも、出てくる不満は、もっと勉強する時間が欲しい、自国語に翻訳されたテキスト(仏典、



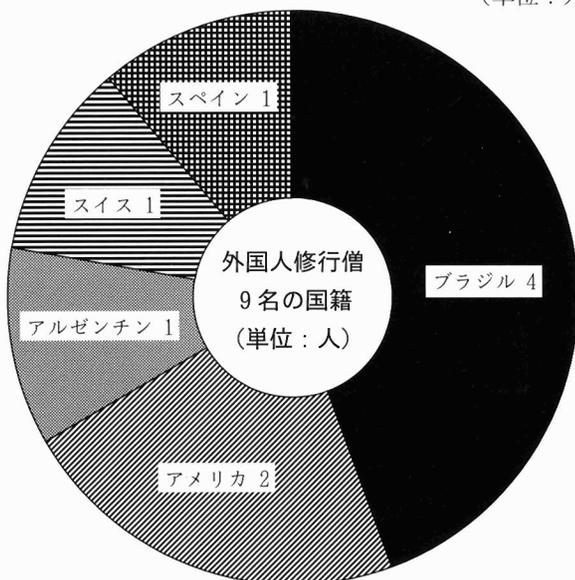
英語と日本語で書かれた差定(スケジュール)

経典等)が欲しい、といったものであった。現在の宗門においては、寺院の子弟の多くが本山安居において、住職になるための資格の取得というのをまず第一に考えてしまうのは、否定できない事実であろう。つまり、目的意識において日々の弁道精進より、一定期間本山に籍を置くことのほうに主眼が向いてしまうのである。先に述べたミーティングでも感じた聖護寺の特異性は、修行僧の目的意識の差異に基盤が

あるようだ。そして、国際安居は、海外への曹洞禅の伝道の基礎の一端を担っているだけでなく、日本の宗門の僧侶にも確実に刺激を提供している。この刺激の主な供給先は、我々若い僧侶に、ほかならぬ。海外においても、曹洞禅の需要は多大であり、求道心を持つ者も世界各国から集まるのである。それに応じ、答えていくこと、そしてさらなる曹洞禅の流布に力を注いでいくことは、我々に課せられた義務である。

外国人修行僧の国籍

(単位:人)



外国人修行僧
9名の国籍
(単位:人)

海外レポート

サンフランシスコ禅センター

禅ホスピスプロジェクト事情

会報第五号クローズアップ・コーナーで、北米開教総監徒弟・コロナ智光師の仏道修行とホスピスでの看護についての記事を紹介しました。智光師は、「坐禅によっていかされている」自分を自覚し、死を迎える人たちやその家族と向き合いお世話していることを述べています。

今回は、サンフランシスコ禅センターが組織として行っている禅ホスピス・プロジェクトについて紹介致します。

設立と運営

米国では、一九七三年にホスピス（末期患者のための病院）が設立されてから、現在では二千以上のホスピスが数えられるというところで。毎年百以上の新しいホスピスが認可され、ビジネス産業として成長していますが、看護自体が事務的になり、精神的なケアがおろそかになってきているという指摘があります。

そんな中、故鈴木俊隆師が創立したサンフランシスコ禅センターでは、一九八七年に禅ホスピス・プロジェクトがスタートしました。一九九二年二月には、非営利法人として認可され本格的に動き出しました。運営は理事会によって行なわれ、広く地域社会で活躍している専門家や、禅センターの実践指導者によって構成されています。このプロジェクトが設立されて以来、国家の補助金は直接受け取

らず、代わってサンフランシスコ財団、ユナイテッドウェイ、スレシヨールド財団などの財団や地域社会や会社などが、運営資金の大部分を援助してきました。また、

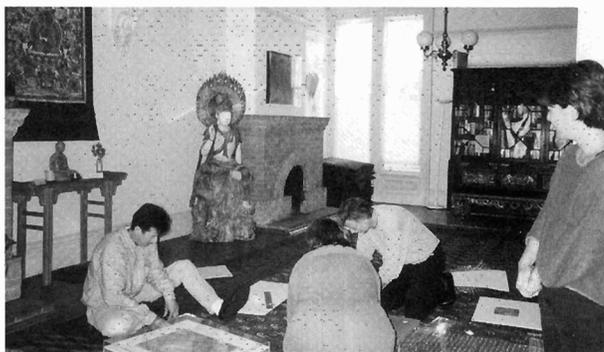
禅センターが経営しているゴールデンゲート・ブリッジが一望できる菜食主義レストラン「グリーンズ」での夕食会や、特別ワークショップなどのイベントを行なって、かなりの資金を調達しています。そして、多くの優れた専門家たちが、ワークショップのプログラムのための時間を提供しています。運営は、非常に米国的で、地域社会を含め多くの人たちに支えられ

特徴

ホスピスは、元来中世ヨーロッパで宗教的实践として発達しました。キリスト教の教えに基づき、修道士が「自己完成の道」としての修行として、騎士の最後を看取ることが課せられたのです。自己を捨て、他に奉仕する精神が強調され、内面的な「自己変革」を目標としたのです。このようにキリスト教では、病人や死んでいく人たちの奉仕の実践行として発達し

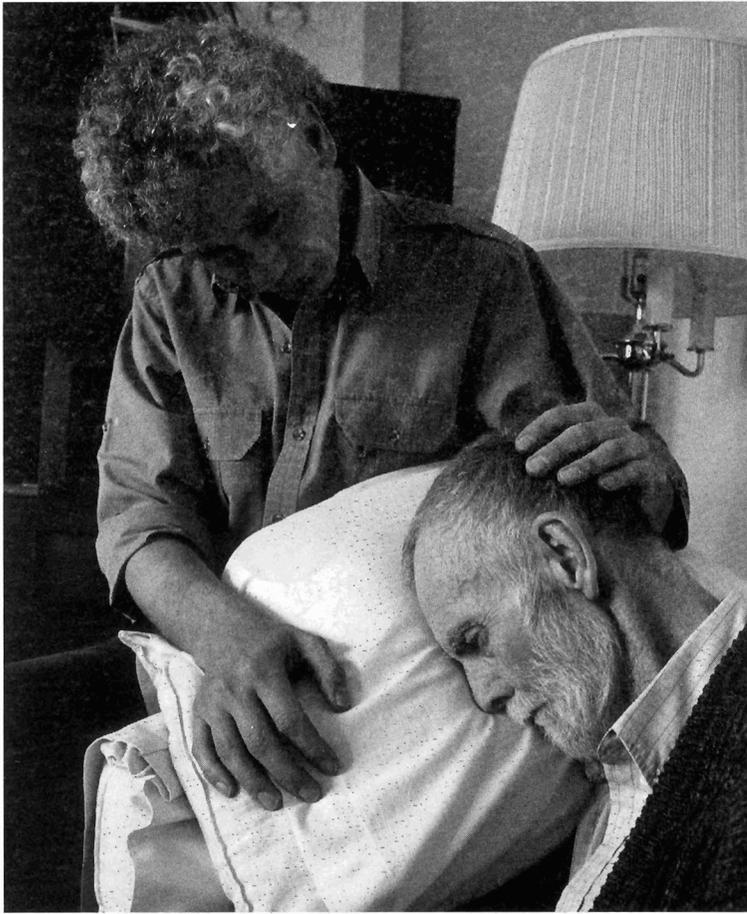


禅ホスピス・ゲストハウス外観



ゲストハウス・リビング 作業するヴォランティアの人達

てきました。一方仏教では、死というものを見つめること、無常を感じることを教えてきました。人が死んでいくその死というものを憐れむのではなく、生まれ、老い、病み、死んでいくのは「人の自然な道」と見ました。釈尊は、執着を離れることの喜びを教え、死というものを見つめることによつて、利那主義でなく、今ここに存在できることの有り難さをしっかり味わうことを教えています。SF禅センターの禅ホスピス・プロジェクトでは、キリスト教の奉仕精神と、仏教の観無常の教え



禅ホスピスプロジェクトディレクター フランク・オスタスキー氏

と瞑想の実践の二つの伝統をうまくプログラムに取り入れました。ここが他のホスピスとは違う点です。

禅ホスピス・プログラム

(1) ゲストハウス（在宅用住宅）

施設・プログラム
サンフランシスコ禅センターのそばに、復元したヴィクトリア調

の美しい住宅をホスピス施設にしています。四部屋の小さなホスピスですが、二十四時間体制で、訪問看護や、カリフォルニア・パシフィック医療センターのサンフランシスコ・ホスピスと提携しています。年間三十人の収容が可能です。

このゲストハウスに入る患者は、ガン患者や同性愛者のエイズ感染者などで、住所不定のため当然受けられる政府の援助が受けられない

の人たちです。つまり、この禅ゲストハウスはそれらの問題を解決するために、住所を与え、訪問看護や、初歩的な治療などのサーヴィスが受けられるように作られたものです。政府としても、一つの場所、何人も患者を見ることが

できるため、治療のコストダウンにつながる奨励しているようです。また、ここでは、宗教、性別、人種、年齢など関係なくサーヴィスが受けられます。

(2) ラゲナ・ホンダ・ホスピス・プログラム

ラグナ・ホンダ
私立病院にはホスピス・ユニットがあり、二十八のベッドがあります。ここは、米国でも一番長期間にわたる治療のできる施設であり、サンフランシスコのモデルでもあります。ここでは、禅ホスピス・プロジェクト

と提携しており、養成されたヴォランティアの人たちが活躍しています。内科医をはじめ看護婦、ソーシャル・ワーカー、行動臨床医、付添い人、宗教家などからなるチームが構成され、治療が行なわれています。

「家族の絆が強い場合でも、ヴォランティアだからこそ可能なことは意外にも多いものです。患者から聞く悩みには、家族に言えない内容のことも少なくありません。また、家族が、心身の休養を取れるようにすることもヴォランティアの役割です」と述べています。そして「ヴォランティアは、いつでも患者の話に耳を傾けるようにしなければならぬ」と強調します。

(3) 教育プログラム

ホスピス・ヴォランティアの養成という教育プログラムを提供することも大事な仕事です。ホスピス・プログラムのディレクターであるフランク・オスタスキー氏は、

括的なものです。瞑想を取り入れたプログラムの基本は、マインドフル（心に留める、気づき、注意）というごくシンプルなものですが、患者の話を親身になって聞くことや、おしめを替えたり、食事の支度をしたり、背中をこすったりする日常の行動の中で、瞑想の中で養った心の寛大さ、マインドフルネス、そして心の平静さと言うものを看護に生かすのです。

(2) ラゲナ・ホンダ・ホスピス・プログラム

「家族の絆が強い場合でも、ヴォランティアだからこそ可能なことは意外にも多いものです。患者から聞く悩みには、家族に言えない内容のことも少なくありません。また、家族が、心身の休養を取れるようにすることもヴォランティアの役割です」と述べています。そして「ヴォランティアは、いつでも患者の話に耳を傾けるようにしなければならぬ」と強調します。

禅ホスピス・ケアの目的はそれぞれの人生の道程を人間としての尊厳と大切な人間関係を保ちながら、人生の終末を迎えた人を介護し、心安らかに死へと移行していくことです。つまり、可能な限り、快適な意味のあるものになるように、患者と家族をお世話することです。

SF禅センターの禅ホスピス・プロジェクトをレポートしてみても、宗教が果たす役割というものを改めて考えさせられました。

でもありません。ここでは、禅ホスピス・プロジェクト

禅ホスピス・プロジェクトのヴォランティア養成は、カリフォルニア州看護婦協会の認可を受け、包

(文責 編集人)

海外だより

故前角博雄師

耆周忌法要

六月七日(金)午前十一時より東京プリンスホテルに於いて、故前角博雄師の耆周忌が総持寺副貫首・余語聖巖老師の導師のもと執行された。その席で、長男・純道師が叔父にあたる桐ヶ谷寺住職・黒田純夫師より得度を受けられたことが報告された。



故前角博雄師耆周忌法要 余語老師ご垂示

北米バークレー

好人庵便り

北米開教師 秋葉玄吾



三月十一日より五月十九日まで十週間のPR ACTICE

PERIOD(制中)を設け、種々行持を修行しました。最後に絡子縫いをし、縫いあげた十人の人に正式のブッディスト(仏教徒)になってもらう在家得度式をし、安名を与えました。ようやくと好人庵も少しづつですが形をなし、歩みを一歩進めたようです。

ドイツ「大悲山普門寺」オープニングセレモニー

ドイツ曹洞宗開教師・中川正壽師は、欧米全体を視野に入れた上で、永年にわたって叢林機能と研修センターの機能を兼ね備えた寺院建立に熱意を注いできました。そして、この度ようやく写真の物件を購入し、左記のとおり落慶法要を挙げる運びとなりました。来欧される方がおられましたら是非参加して頂きたいと思えます。南ドイツ・バイエルンのゆったりとした自然を満喫いただけるでしょ

う。また中川師は、若い僧侶の方で半年でも一年でも滞在し、国際体験を志そうとしている方を受け入れて下さるとのことです。



ドイツ アイゼンブッフ 大悲山普門寺

日時 一九九六年十月十二日(出) 会場 ドイツ・アイゼンブッフ

大悲山普門寺

(ミュンヘン空港から車で約45分)

☎00114918916111 095 F.S.N.A.K.A.G.A.W.A

第10回世界宗教者

平和の集い

日程 一九九六年十月七日(月) ~ 十月十日(木)

テーマ 「宗教と平和」

会場 イタリア

主催 聖エディジオ共同体

*詳細については峯岸正典師まで

☎027418412518

SZ Iだより

SZ I総会報告

去る五月八日(水)午前九時より、一九九六年度SZ I総会が全国より参集した会員の皆様とともに岐阜県高山、正宗寺において開催された。

この総会に先じて、松永然道会長導師により本尊上供、海外開教師示寂者追悼会が正宗寺本堂にて

行なわれ、引き続き客殿にて篠田一法師の開会の辞により総会が始められた。

最初に、松永然道会長から「年々会員数も増え、それと共にSZ Iに対する期待と責任も増してきています。今後さらに宗門国際化の一助を担って努力していきますので、会員皆様のより一層のご理解ご協力をお願い致します」と挨拶、そして事務局一任により加藤孝正師が議長に指名され議案が討議された。

SZ I総会風景 5月8日(水)



事務局より一九九五年度の事業報告、会計報告、そして会計監査報告がなされ、満場一致で承認された。次に一九九六年度の事業計画案、会計予算案が事務局から提出説明があり、これも満場一致で承認された。

また、会計年度を現行の四月一日から翌年三月三十一日までを一月一日から同年十二月三十一日に変更したいとの説明と提案が事務局よりされ、全員意義なくこれを承認し、会則の一部変更と共に本年度は三ヵ月

短い十二月三十一日で年度末を迎えることが付け加えられた。
午前十一時前に滞りなく総会は無事閉会となりました。

さて、この総会に先立ち、前日の(七日)夜七時から岐阜高山丹生川文化ホールにて、岐阜県高山正宗寺住職・原田道一師が代表であるワン・ポウルネットワーク主催による「地球に感謝する集い」が開催され、そのあと親睦会が九時過ぎから二時間 旅館四反田(したんだ)にて行われた。SZ I会員と「地球に感謝する集い」に協力して頂いた出演者やスタッフの方々と楽しく有意義な高山での夜を過ごしました。



「地球に感謝する集い」5月7日(火) 於岐阜高山丹生川文化ホール

ワークショップ

日程 一九九六年十月十六日(水) ～ 十月十七日(木)
内容 「文化変容の中で生きるお寺」

会場 熱海 新かど旅館
〒四一三 静岡県熱海市小嵐町一四一八
☎0558-8116185
熱海駅からタクシーで8分

*参加者には、事務局より会場への地図、日程表を後日送付する。

会費 会員 二万円
非会員 三万円(内一万円は年会費に充当します)
申込み 事務局 ☎0485-15710999 (福島)

新規会員、並びに会員ご継続ありがとうございました。

| 氏名 | 住所 |
|--------|-----------------|
| 青山俊董 | 愛知県名古屋市 愛知専門尼僧堂 |
| 青山嶺雲 | 静岡県静岡市 山王寺 |
| 赤間直道 | 宮城県仙台市 龍角寺 |
| 赤松利章 | 東京都中野区 宝泉寺 |
| 秋田新隆 | 静岡県静岡市 法幢寺 |
| 浅井宜亮 | 愛知県大府市 地藏寺 |
| 浅山賢栄 | 青森県三戸郡 儒童寺 |
| 天野宏雄 | 宮城県加美郡 皆伝寺 |
| 有馬実成 | 山口県徳山市 原江寺 |
| 飯島尚之 | 東京都中野区 宗清寺 |
| 石塚良光 | 福井県武生市 宗生寺 |
| 伊藤仁志 | 千葉県安房郡 瑞岩寺 |
| 伊藤道志 | 秋田県平鹿郡 満福寺 |
| 糸柳格順 | 静岡県藤枝市 洞雲寺 |
| 猪俣正孝 | 静岡県浜北市 高林寺 |
| 岩井恵澄 | 富山県黒部市 東信庵 |
| 岩井清堂 | 三重県飯南郡 東漸寺 |
| 大嶽素宏 | 静岡県庵原郡 宗清寺 |
| 大竹明彦 | 愛知県名古屋市 全隆寺 |
| 大谷哲夫 | 東京都新宿区 長泰寺 |
| 大西泰信 | 福島県大沼郡 正法寺 |
| 大場泰宜 | 東京都世田谷区 勝光院 |
| 大山陽堂 | 千葉県富津市 海竜寺 |
| 岡島博司 | 愛知県豊田市 永沢寺 |
| 岡野定丸 | 福島県福島市 盛林寺 |
| 小笠原隆元 | 長野県松本市 広沢寺 |
| 乙川瑛元 | 新潟県新潟市 宗現寺 |
| 小原智司 | 愛知県豊橋市 西光寺 |
| 金平祖隆 | 福島県福島市 金剛院 |
| 喜美候部正志 | 群馬県群馬郡 長年寺 |
| 米馬規雄 | 東京都豊島区 高岩寺 |
| 樽林津龍 | 東京都世田谷区 真竜庵 |
| 黒田純夫 | 東京都品川区 桐ヶ谷寺 |
| 黒柳祖道 | 長野県長野市 天周院 |
| 玄番良元 | 栃木県安蘇郡 玉雲寺 |
| 香林寺 | 埼玉県東松山市 大雄寺 |
| 小島孝尋 | 宮城県本吉郡 宝泉寺 |
| 采川道良 | 山形県東田川郡 神仙寺 |
| 斉藤征良 | 埼玉県行田市 興雲寺 |
| 佐伯逸雄 | 愛媛県周桑郡 長安寺 |
| 桜井秀雄 | 東京都世田谷区 長松院 |
| 佐藤隆雄 | 岩手県一関市 地藏寺 |
| 篠田一法 | 愛知県名古屋市 西光寺 |
| 慈眼寺 | 岩手県宮古市 静光院 |
| 神野哲州 | 愛知県名古屋市 観音寺 |
| 鈴木昭一 | 静岡県焼津市 静光院 |
| 鈴木包一 | 静岡県焼津市 観音寺 |
| 関光禪 | 千葉県八千代市 観音寺 |
| 高橋秀雄 | 埼玉県北埼玉郡 広徳寺 |

| 氏名 | 住所 |
|------------|---------------|
| 田上太秀 | 東京都世田谷区 東長寺 |
| 滝澤和夫 | 東京都新宿区 興禅寺 |
| 武田秀嗣 | 埼玉県富士見市 聖光寺 |
| 田中哲彦 | 広島県広島市 観泉寺 |
| 田中芳周 | 東京都杉並区 興源寺 |
| 田宮黎友 | 新潟県新潟市 親雲寺 |
| 千代田文隆 | 埼玉県羽生市 法音寺 |
| 東栄寺 | 愛媛県松山市 瑞林寺 |
| 飛田正道 | 新潟県加茂市 祥雲寺 |
| 土居孝道 | 愛媛県喜多郡 常泉寺 |
| 中小路岡道 | 京都府舞鶴市 寿福寺 |
| 中野重孝 | 福島県福島市 法清寺 |
| 中道顕雄 | 大分県中津市 大慈悲院 |
| 奈良康明 | 東京都台東区 徳城寺 |
| JTB営業部営業一部 | 東京都千代田区 常在院 |
| 野原央全 | 静岡県静岡市 瑞岩寺 |
| 橋本徳倫 | 富山県滑川市 寶昌寺 |
| 長谷川俊峰 | 福島県西白河郡 龍心寺 |
| 長谷川昭雄 | 群馬県太田市 石雲寺 |
| 秦慧孝 | 東京都杉並区 正古寺 |
| 花和明雄 | 茨城県結城郡 峯翁寺 |
| 葉貫琢良 | 福島県安達郡 桂昌寺 |
| 原田道一 | 岐阜県大野郡 東禅寺 |
| 原山浩昭 | 岐阜県上野内郡 電門寺 |
| 平了興正 | 群馬県安中市 般若寺 |
| 福田恵文 | 東京都台東区 曹流寺 |
| 藤井和彦 | 東京都新宿区 青眼寺 |
| 藤川享胤 | 山形県鶴岡市 医王寺 |
| 堀部明宏 | 福島県耶麻郡 玉泉寺 |
| 松浦泰俊 | 愛知県名古屋市 和銅寺 |
| 水町宗典 | 滋賀県蒲生郡 大川寺 |
| 光山卓生 | 長崎県佐世保市 摩訶行寺 |
| 三村達道 | 佐賀県杵島郡 保福寺 |
| 宮崎輝郎 | 福島県安達郡 有(オモロ) |
| 棟方清允 | 長崎県北高来郡 宗徳院 |
| 村上邦雄 | 秋田県大曲市 鏡徳寺 |
| 山口義博 | 広島県尾道市 盤脚院 |
| 山口淳一 | 青森県黒石市 西有寺 |
| 山崎季晟 | 群馬県新田郡 最乗寺 |
| 山田栄一 | 静岡県三島市 円通寺 |
| 山田康夫 | 茨城県日立市 種徳寺 |
| 横山敏明 | 静岡県藤枝市 松庵寺 |
| 余語翠巖 | 神奈川県横浜柄 清林寺 |
| 吉岡棟憲 | 神奈川縣横足柄 上郡 |
| 渡辺孝彦 | 福島県福島市 |
| 渡辺紫山 | 神奈川縣足柄 上郡 |
| 渡辺禅悦 | 秋田県山本郡 |

96年4月1日～7月10日までの会費(入会金) 敬称略 五音順

事務局活動日誌

(一九九六年四月～七月)

- 四月九日 役員会
四月二十六日 北米総監部と打合せ
五月七日～八日 総会
五月十五日 事務局会
五月二十日 三共社印刷打合せ
五月二十五日 会報編集会議
五月二十九日 役員会
六月七日 前角師老周忌追悼会
六月十日～十五日 聖護寺安居取材
六月十二日 三共社印刷打合せ
六月十三日～十四日 総和会関東大会
六月十四日 原稿依頼
六月十九日 有道会関東大会
六月二十日 事務局会
七月一日 研究会会場視察
七月三日 事務局会

特別寄付

1996年4月1日～7月10日まで

敬称略

- 浅井大場 1万円寄付
岡野泰定 1万円寄付
小笠原隆元 5千円寄付
来馬雄規 1万円寄付
小島孝一 2万円寄付
篠田一法 2万円寄付
長谷川昭雄 1万円寄付
葉貴琢 5万円寄付
水町宗栄 1万円寄付
山田栄一 1万円寄付
樽林真龍 本10冊

訂正お詫ひ

会報第七号

- P2 三段目 大本山永平寺の南
沢監院老師↓管長代理として教
化部長
P6 大円尼↓大円師
P7 五段目 曹洞宗海外振興協
議会↓曹洞宗海外開教審議会

弔意

大本山永平寺副貫首・橋崎一
光老師の遷化に接し、心から
の哀悼の意を表します。

マウイ満徳寺創立90周年

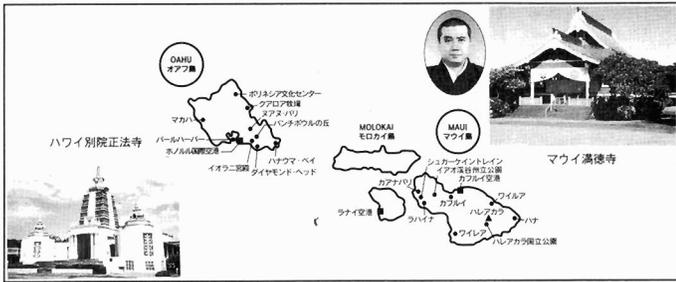
ご協力をお願い

SZ I 会長 松 永 然 道

日頃はSZ I (SOTO禅イン
ターナショナル)の活動にご支援
頂き、誠にありがとうございます。
この度、ハワイのマウイ島満徳
寺においては創立九〇周年を迎え
られ、大竹明彦宗務総長老師をご
導師に拝請し、その記念法要が来
たる十一月十七日に厳修される予
定であります。つきましては、下
記の日程で海外開教地への「フレ
ンドシップ・ツアー」を企画いた
念し、ここにお誘い申し上げます。



仏教東漸100年の颯
マウイ満徳寺創立90周年記念法要
仏教国際親善ハワイの旅



ご案内

- 旅行実施日: 1996年11月15日(金)～11月21日(木)[5泊7日]
旅行代金: 大人おひとり様 238,000円(成田発着)
札幌追加代金: 30,000円

- 募集人員: 50名(最少催行人員: 30名)
募集締切日: 1996年9月30日
一人部屋追加代金: 76,000円
食事: 朝食4回、昼食2回、夕食4回
利用予定航空会社: JAL 予定
ホテル: マウイ・クアラニホテル(部屋指定なし)

Table with columns: 月日(曜), 地名, 現地時間, 交通機関, 予定. It details the travel schedule from Oahu to Maui and Hawaii.

- 企画: SZ I (Soto禅インターナショナル)
「Soto禅インターナショナル」は、海外布教経験者有志の呼びかけ
によって、1993年2月、西大本山並びに宗務所からの賛同を頂き、
会員の皆様とボランティア・スタッフが運営する地球時代に向けた
海外布教、及び国際交流を推進する団体です。
●私たちが「マウイ満徳寺創立90周年」を応援します。
駒沢大学昭和31年同窓会有志 (通称三一會)
総持寺55年安居有志
●お申込み・お問い合わせは……

JTB団体旅行東京中央支店
「仏教国際親善ハワイの旅」デスク
営業時間/月～金 10:00～17:00
一般旅行業務取扱主任者: 坂上英男
TEL: 03-5245-5322
FAX: 03-5245-4683

※又お近くのJTB各支店へ

詳しい旅行条件はお送りする案内書にてご確認ください。

マウイ満徳寺創立90周年事務局
〒164 東京都中野区上高田
1-27-6 宗清寺内
03-3333-6106

SZI主催★チャリティーゴルフ
(会費未定 レンタル・クラブ、シューズ有り)
マウイのワイレア・ゴルフ・コースにて開催
予定。
「満徳寺創立90周年」を記念し、日系の老
年寄りが多く入院治療を受けている、「カフ
ルイ・ハレ・マクラ病院・医療老人ホーム増築
基金」への寄付を予定しております。地元
の方々とも交流でき、マウイの地域社会に
貢献できるコンペを企画中です。